

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500101		
法人名	株式会社かしの木		
事業所名	グループホームかしの木		
所在地	東牟婁郡那智勝浦町天満1415-10		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jigyosvCd=3092500101-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jigyosvCd=3092500101-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階
訪問調査日	令和5年12月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気になるよう努めています。</li> <li>・環境整備を工夫し、安全性・清潔性を保つことに配慮しています。</li> <li>・看護師資格を持つ職員が3名おり、医学的観点から、観察が日常的にできています。</li> </ul>
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームの名は、那智勝浦町の町木である「かし」から採られており、「かしの木のように地元にしっかりと根付きたい」との思いが込められている。管理者自らが平成24年に創業し、12年目に至る。「家庭的な雰囲気の中で心身の状態を和らげ、入居者本位の生活を支えていきたい」と始めた手作りのグループホームであり、管理者は今でも「やってみて良かった」との感想を抱いている。立地は、豊かな自然と生活の便利さが調和し、大変優れており、近隣に民家も少なくない環境にある。看護資格を有する職員が3名、介護福祉士7名という専門職を配置し、手厚い支援が行われている。また、ボランティア(掃除や芸の披露等)やタブレットの活用等、サービス向上に工夫が見られる。さらに、入居者へのレクリエーション活動を毎日30分間、行っており、入居者の好評を得ている。</p>
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である笑顔で元気で健康的にを、実践できるよう、職員全員で共有できています。	入居者の目に付くグループホームの玄関とリビングに入居者による筆書きの理念が掲示されている。また、理念である「家庭的な雰囲気、笑顔で、元気で、健康的に」を入居者と全職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で、交流は、あまりできていません。時折、職員の知人が芸を披露するなど、交流の場はあります。	職員の知人1名がボランティアとして月2回、グループホームに掃除に来てくれたり、南京玉すだれ等の芸を披露する等、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や、見学、相談者に対して、専門的視点から、日々の様子、ケアの方法について説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	インシデントやエンゼルケア、行事などについて報告しています。ケアや対応について、困ったことは相談し意見を得ています。	区長、町役場職員、町社協職員及びグループホーム職員が参加し、グループホーム内で定期的実施されている。入居者の状況や行事、防災対策、従業員の状況、事故、コロナや熱中症対策等について活発に議論されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町とは、アクシデント、施設の方針などについて、相談し、助言を得ています。できる限り研修には積極的に参加しています。	事故が起こった時などは、すぐに町に報告し、指示を仰いでいる。運営推進協議会以外にも、随時、町に相談し、必要な助言や指示を受けている。また、町主催の研修に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、研修に参加し、資料をもとに職員に講義を行いました。転倒・転落などの事故を防ぐため、やむを得ない限り、身体拘束はしていません。	身体拘束に関する指針や説明書を作成し、身体拘束を極力避けるように努めている。また、やむを得ない身体拘束を行った場合、記録として残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修に参加し、1か月に一度のカンファレンスで職員の虐待について話し合いを持ち、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、利用者が利用する場合もあり、各個人で学び、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、内容に不明点がないよう説明し、改定時は電話をし、了承を得てから改定についての書面を郵送しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族などの意見について傾聴し、可能か不可能か判断し、説明して、運営に反映させています。	日々の入居者とのかかわりの中で、小さな訴えも見逃さないよう、耳を傾けている。現在も感染対策として家族との面会は玄関先で短時間だが、面会の際や電話で情報報告の際、家族の意見にも真摯に耳を傾けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや普段の日常業務のコミュニケーションの中で意見を聞き反映させています。	令和5年4月より介護日誌からタブレット端末機器に変更し、日常業務について「気づいた点」や「改善点」など、職員が自由に記載し、申し送りを行っている。タブレットからパソコンにデータを送り、記録として保存し、共有が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法規を遵守し、職員の能力や勤務状況を把握し、待遇を判断しています。 納涼会を実施し、職場の雰囲気作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を奨励しています。 資格取得について、奨励し、補助しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の中には、ベテランも多く、他事業所で勤務している者も多く、情報を聞き、コロナウイルス感染防止対策やケアの質向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は不明点や、不安になり不調をきたすことも多く、意識的にコミュニケーションをとっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、電話連絡時、状態を正確に伝え、施設での生活に安心感を持ってもらえるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集し、アセスメントし、必要な支援を導き出しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、トイレトーパー補充など、本人ができることはしてもらい、共同生活を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や受診付き添い、衣類など、家族にしかできない支援もあり、協力し支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染の関係で、家族以外の面会は遠慮していただいています。状況が落ち着き次第、再開する予定です。	感染症対策として家族との面会は1週間に1回となっている。地域で開催される福祉のイベントや祭りなどに職員が同行して入居者が参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルを早急に解決、席を変えるなどし、人間関係を良好に保てるよう、配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、相談・支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、希望、意向を把握しています。	フロアにおける席順は入居者の好みの形態とし、好評を得ている。入居者の希望を取り入れ、リビングに花や観葉植物を設置している。また、一人ひとりの思いを汲み取り、居室のレイアウトを実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族や以前担当のケアマネジャーに確認し、生活史や仕事についてコミュニケーションしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、スタッフ間とのコミュニケーションで、現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務の中での意見をもとに、介護計画作成をしています。	職員全員で意見交換やアイデアを出し合い、入居者ごとの心身の状態に配慮した介護計画を作成している。	さらに充実した支援をしていく上で個別計画書の中の課題(ニーズ)について具体的な項目を挙げて目標や援助内容を検討していくことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変わったことや、特記事項があれば、記録に残しています。計画見直し時、実践時、活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲内でのニーズに対応しているも、多機能化までには至っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人の紹介で、楽器演奏、南京玉すだれなど、時折観賞会を実施しています。より活用できると考えます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望や適切な医療が受けられることができるよう支援しています。	認知症や難病への対応のため、精神科、整形外科、神経内科等への通院について、家族が同行できない場合、グループホーム職員が同行しており、個別の医療対応が適切になされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な情報や気づきを伝えて相談できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要だと判断した場合、受診しています。サマリーを作成し、情報交換できるようにしています。 かかりつけ医とは、関係性ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の指針を作成し、同意を得ています。	「グループホームかしの木における重症化に関する指針説明書」という書面を用いて、入居時に入居者及び家族に説明している。現在、看取りの対象者はいないが、対応できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が初期対応できないものの、看護師が日勤で働いています。何かあれば駆けつけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成中です。出来次第、法人内研修をし、避難方法を共有します。	火災訓練は6ヶ月に1回、実施できている。水害(津波)避難訓練に車椅子の入居者含めてグループホーム入居者と職員が参加している。救命胴衣は利便性を考えて玄関先に一括して設置している。備蓄として水やラーメン等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーに留意しつつ、一人ひとりの性格や素質によって、口調、対応も変化させています。	年長者として敬意を払い、入居者に対しては名字に〇〇さんを付けて呼んでいる。礼節をわきまえた言葉遣いを心がけており、かつ、親しみやすい会話となっている。排泄誘導や対応の際は羞恥心に配慮して特に慎重に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分の思いを表出しない利用者に対しては、意識的にコミュニケーションを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などは、日・時間が決まっているも、それ以外は自由に過ごしており、居室も確認しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気温や状況に合わせた衣類を選択していたら、その中で身だしなみに気を使えるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おまぜやラーメンなど、好物が提供できるように、工夫しています。 台拭きなど準備を一緒にしています。	調理専門の職員がおり、美味で安価な手作りの食事が提供されている。入居者の希望する献立や郷土料理も提供されている。入居者自身が食後に自分の前だけ台拭きをしたり、元漁師の入居者が包丁で魚をさばく等、できる力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて形態変更し、ほぼ毎日、全員、全量摂取しています。 水分量が少ない場合、摂取を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて、毎食後、口腔ケアは実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターン、状態に合わせて、支援しています。	タブレット端末機器を活用し、排泄チェック表に記載している。夜間のみオムツ使用1名やポータブル使用1名など、排泄の自立している入居者が多い。一人ひとりの排泄パターン、状態に応じた丁寧な声かけや対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤調整、水分補給を促し、予防に取り組んでいます。 また、排泄の確認を意識的に行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日に関しては、固定し、実施しています。 男性介助を拒否する利用者もあり、個別に支援しています。	入浴は、週2回、月曜日と木曜日の9時から12時までに実施されている。同性介助を希望されている女性入居者に対しては、個別に対応している。	同性介助を希望されている入居者に対して職員のローテーションの工夫や曜日や時間の調整を検討して個別に入浴支援を進めていくことが期待される。また、入浴の機会の拡大も望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべくサーカディアンリズムを整えていますが、少しの昼寝が必要になる場合もあり、工夫し、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬拒否をする利用者もいます。目的を説明し、服薬介助しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを毎日実施、なるべく全員参加できるものを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者から外出希望をすることは、少ないです。職員から働きかけ、外出を支援しています。	職員の働きかけにより、近くの公園に散歩に行ったり、お花見に出かけたり、車でコスモス畑に出かけている。また、2名の入居者は、日帰りで自宅帰省し、なじみの理髪店に散髪に行ったり、家族と過ごしている。外出により気分転換が図られている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていない、不安だと話す利用者に対しては、金銭所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合、先に職員が電話し、説明後、電話対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・安全に留意し、環境整備しています。光がまぶしいと訴え多く、調整しています。	リビングの窓からの光がまぶしいので、シャッターで調整している。手すりや動線に物を置かない等、安全面に配慮している。また、職員が撮った写真(風景)がグループホームの玄関やリビング、廊下に掲示され、季節感を楽しむことができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は、部屋で過ごしたり、食堂で話したり、居心地の良い環境作りを目指しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾る、ラジオを聴くなど居心地が良くなるように配慮しています。	入居者が自宅で使っていた茶碗や箸、写真、テレビ、ラジオ、三味線、宗教関連の物(仏壇、十字架、聖書など)の持ち込みを奨励している。また、居室の入り口には筆で書かれた名札が掲示されていて趣のあるもの、かつ、分かりやすいものとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線に物を置かない、手すりを設置するなど、安全に留意しています。		